

平成27年度 部局長マネジメント方針

こうだ しょういち
水道施設部長 甲田 正一



仕事に対する基本姿勢

水道事業の使命は、安心して安全な「命の水」水道水を安定して使用者の皆様にお届けすることです。文化的な都市生活を営む上で、一日も欠かすことのできない事業であり、水道施設部では水道施設の新設・更新や維持管理などを行い安定供給に努めています。

現在、平成23年度から平成27年度までの5ヵ年において「第三次水道施設整備事業」を計画的に進めており、災害時に強い生命線上のライフラインの確保を目指して水道施設の強化を図っています。

しかし、水道事業を取り巻く環境は、増え続ける老朽施設の更新費用の増大と、また、社会状況、人口の減少や節水器具の普及等により給水収益が減少するなど、経営環境は非常に厳しいものとなってきています。この限られた財源の中で、努力と創意工夫をもって効率的・効果的な事業を行い「安心できる水道」の構築につとめてまいります。

平成26年度の振り返り

重要な課題であります山間部地区への水の供給安定性向上を図るため、日下中区配水池整備事業・北部受水中継ポンプ場整備事業・五条低区配水池整備事業の施工を平成26年度から2ヵ年の計画で開始し、送配水管の整備や既設配水池の解体、基礎工事などを現在行っており、平成27年度末完成に向けて基幹施設の整備に取り組んでいます。また、災害に強い管路を目指して計画的に老朽化した水道管の更新を行い、耐震管への整備も図ってまいりました。平成27年度も引き続きライフラインの確保を目指して精力的に頑張っております。

平成27年度に取り組む重点課題

給水人口や配水量の減少等が見込まれる中、水道施設の新設・更新・耐震化は、施設の建設から維持管理、廃棄までのコストをいかに低く抑えるかが重要であり、限られた財源で最大の効果が得られるよう、効率的な事業を進めてまいります。

1 老朽化水道施設の効率的な更新

- ・新配管材料の採用による費用の節減

新型の配管材料を積極的に採用し、掘削幅の狭小化による土工事費の削減や施工性の向上に伴う管工事費の縮減で、従来の配管布設時の費用に比べて約6%の費用節減を図ります。

- ・エネルギーの有効活用

企業団からの受水を配水池に一度貯めてポンプ配水していたものを、企業団受水圧を利用してそのまま直送し、不足する圧力のみを加圧配水することでポンプ動力費の節減を図ります。

- ・水道施設の耐震化とダウンサイジング

水道施設の更新時に、地震等に強い工法や新しい技術の採用及び、将来の水需要を見据えた施設のダウンサイジングなど、耐震化の向上や事業費用の節減を図ります。

- ・管路情報システムの有効活用

管路情報システムには、膨大な管路と給水原簿の情報として、布設年度、口径、管種、工事名等が納められており、集計機能により希望する順位を導き出し、効率・効果的な管路更新に有効活用を行います。

2 安定給水のための水道施設の維持管理

- ・漏水対策

老朽管の増加に伴い漏水量も増えますが、漏水を抑制するために、漏水調査の更なる充実や漏水の可能性が高い古い管の積極的な更新、使用水量検針時による早期発見、耐震性新材料の採用など維持管理に努め、漏水などの軽減で使用者の皆様には安定給水を図ってまいります。

- ・水道水質の安全性の確保

受水槽のある給水設備方式については、水質の安全性を高めるために蛇口までの直接給水（直結直圧給水）ができるよう推進します。また、受水槽等使用者の皆様には施設の安全使用の指導や啓発を行います。

3 早期復旧が可能な水道づくり

- ・配水エリアのブロック化

市内の配水区域を小さく分けることにより、災害時など修繕の終わった地域から順次、給水復元が可能になり、また、水圧が安定することから、市民サービスの向上や漏水抑制につながります。

- ・災害時等の相互応援体制の確立

災害時においては、国、府、日本水道協会等と密に連携をとり、また、近隣都市等との相互応援協定に基づき、体制確保に努めます。